

令和7年度 第2回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会

< 次 第 >

日時：令和7年9月8日（月）13：30 - 16：00

場所：中 部 森 林 管 理 局 大 会 議 室

1 開会

2 森林整備部長あいさつ

3 議事

（1） 国有林材供給調整対策について

（2） その他

4 閉会

令和7年度 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会 委員等名簿

検討委員会 委員

区 分	所 属	氏 名
学識経験者	信州大学名誉教授	植木達人
関係行政機関の職員	富山県農林水産部森林政策課 主幹	北島貴文
関係行政機関の職員	長野県林務部信州の木活用課 県産材利用推進室長	今尾春彦
関係行政機関の職員	岐阜県林政部県産材流通課長	垂見光貴
関係行政機関の職員	愛知県農林基盤局林務部林務課 あいちの木活用推進室長	佐久間学
川上・川中	長野県森林組合連合会 業務課長	田口連蔵
川上・川中	岐阜県森林組合連合会 木材流通本部長心得	赤池保
川上	平澤林産有限会社 代表取締役	平澤照雄
川上・川下	株式会社勝野木材 代表取締役社長	勝野智明
川中・川下	株式会社東海木材相互市場 代表取締役会長	鈴木和雄
川下	ウッドリンク株式会社 代表取締役副会長	原野哲雄

中部森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	村 上 卓 也
資源活用課長	三 井 正
企画官（木材需給対策）	村 木 英 徳
企画官（間伐推進）	下 平 明 博
上席技術指導官（木材供給）	谷 澤 恭 子
素材供給係長	黒 澤 友 大
供給計画係	菊 地 真 以

令和7年度 第2回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会

(概要)

1. 開催日時

令和7年9月8日（月）13時30分～16時00分

2. 開催場所

中部森林管理局 大会議室

3. 検討内容

（1）国有林材供給調整対策について

（2）その他

4. 検討結果

全国的な木材需要動向については、7月の新設住宅着工戸数は4か月連続で減少している中、国産材丸太は全国的に出材が減り、価格は高値で推移している。プレカット工場の受注は低迷しており、実需の少なさが続いている。

また、国産材製品は需要が盛り上がり荷動きが低迷しているが、直需向け大型製材工場では高水準で稼働し秋に向けて引き合いが強まっている。

一方、中部局管内の原木価格に目を向けると、今年は夏場を迎えても素材価格が下がらない状態が続いており、岐阜県のヒノキ、愛知県のスギについては上昇する傾向が続いている。原木集荷が最も減少する8月を終え、原木の供給に対する期待も高まっている。

こうした状況を見据え、現時点では国有林材の供給調整は行わず、森林整備を通じた安定的な原木供給に努めていくことが重要である。

5. 委員意見等

○製品については需要が落ち込み、地元の製材工場では入荷を抑える動きが出始めている。そのため山側はスギの生産調整に入っている。中間土場に原木の調整機能を持たせる必要がある。現在は原木について需給が乱高下している状況ではない。

○国有林野事業の早期発注により山側の動きが早く、年間での平均的な出材量も見込まれる。

需要については、落ち込んでいるところであるが、極端な出材量の増加もなく、値崩れせずに販売できている。

本来なら入梅時期は、スギ、ヒノキの価格が下がる時期だが今年は高止まりし、カ

ラマツにおいては高水準である。

需要はあるので、年間を通じて安定的な供給が必要。

○ヒノキ価格については出材量が非常に少ない状態で、夏場を迎えても下がらなかった。

入荷が少ない状態が続いているところであり、引き続きの安定的な供給が必要である。

○素材生産事業者も安定供給に協力し、現在必要な者へ適正な価格で材を販売する必要がある。

○製品の需要が非常に落ち込んでいる。特に住宅に使用する土台、柱、梁桁、羽柄材等の製品の需要が落ち込んでいる。プレカット工場の稼働率も10%~20%も落ち込んでいる。

原木の供給については、安定的な供給が必要である。

○プレカット工場はみんな落ち込んでいる。自社については一般住宅が落ち込んでも、非住宅の方でなんとか利益を出している。丸太の問題を言うと、夏場の通常市をやめるかというぐらい閑散としている。絶対量も少ないし、客も来ない。こんな状態がずっと続いている。

○県営林で定期的に年に3回か4回とか立木の入札を行っているが、この前の入札では価格が上がった。原木を求める者は県内には多い。

○県内の製材品の出荷量が減少の続き、令和6年は過去最低を記録している。
住宅着工数は長野県の場合は大きく減少しておらず、木造率も減少していないが、県外の手先のメーカーが比率を伸ばし、県内の製材品の需要が減ってきていることを非常に危惧している。

○県内の年間8万m³製材する工場では、8月の在庫量が必要量の半分といった状況で、集荷が困難な状況である。人件費、輸送費等のコストが上昇している中で、施業のあり方も含めて大きな課題となっている。

○県内の生産量は4割~5割ぐらいが森林組合系統で占めている。昨年よりも若干、生産計画が順調に進んでいるという状況。

以上。